

繋がる歴史120年

緑のロード



母校校舎シリーズ(23) 「正面玄関」

発行
 福島県立
 橋高等学校同窓会
 (福島女子高等学校同窓会)

発行人
 坪井有子

発行所
 福島市宮下町7-41
 電話(024)535-3395
 FAX(024)535-3397

会員数
 37,292名
 (2016.3 現在)

母校創立119年



ご挨拶

同窓会会長 坪井有子

(昭和41年卒)

平成二十八年度の同窓会総会において、はからずも清水玲子前会長の後を受け、会長という大任を仰せつかりました。これまで評議員・役員として堀口文子元会長・遠藤宮子元会長・清水玲子前会長の皆様と一緒に同窓会に関わらせて頂いてまいりました。どなたも、素晴らしいリーダーシップを取られ同窓会の発展に貢献されましたことはご承知の通りでございます。その後を引き継ぎますには誠に心細い思いですが、選任されましたからには役員はじめ評議員そして同窓生の皆様のご協力を得て、会長職の任務を果たしてまいりたいと思っております。

さて、母校は本年創立百二十周年を迎えます。明治三十五年女子高校として開校した母校は、福島女子高校、さらに共学の橘高校と名称を変えながらも、母校の伝統を繋いできました。同窓生も三万七千人を超えました。

百二十周年の記念事業を考え、百二十周年の記念事業実行委員

「百二十周年の記念事業実行委員」が発足しました。今回の記念事業として、生徒を中心に考える百二十周年にする方針を進めることになると思います。同窓会としても全面的に協力して記念事業に当たりたいと思っております。記念式典・記念誌発行・講演会等実行委員会に於いて検討を進めていくところです。

橘高校となつて十年以上となり、同窓生に男性会員も増えてきております。ここ数年同窓会総会に、その年の卒業生の各クラスの学年幹事をご招待し同窓会のあり方、様子を感じていただく機会を作ってきました。毎回数人の参加をいただいておりますので、将来は同窓会の評議員、役員として男性の参加も期待するところです。

長い歴史のある同窓会がこれからも、その時代の変化に対応しながら発展していけるよう努めたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。



ヤマトタチバナの 芽吹く地より、再び

校長 青山修身

同窓会員の皆様におかれましては、常日頃から本校教育にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。創立百二十年を次年度に控え、かつ、「花たちばな」の校名を冠しての十四年目の軌跡を学校沿革へと刻もうとする中、卒業生がそれぞれの希望進路に向かって、一人ひとり、胸を張って学舎を巣立ってまいります。

やがて再び四月が巡れば、希望に胸をふくらませた新入生が一人ふたりと通う正門脇のヤマトタチバナの樹に数えきれぬ花々が咲き誇るでしょう。小さな五片の春風に光る真

は右近の橘でした。この世界に、おそらく、真に永遠なるものは存在しないのかもしれない。ひともまた。しかし、ひとは、ひとからひとへと若木を繋いできました。誰かが旅立てば、そこへ誰かが辿り着き、若木を受け継ぎ、未踏の道程へと、真白き花弁可憐に開く時を夢みて、また踏み行つて行きました。それを、ひとは「永遠」と呼びました。この学舎に百十九年の長きに亘って継承されてきたもののことです。結びに、同窓会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ本校教育へのご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。ヤマトタチバナの香気爽やかに放つ緑葉が「三・一」から六度目の厳冬に耐え、今年も芽吹き春を迎えようとして

さもさることながら、四季を問わぬ常緑の葉が尊ばれ、古来、永遠の植物と讃えられてきました。千百年の古都、京の御所紫宸殿に配されたの

また今年度は役員改選の年に当たり、新役員が紹介され、最後に、四期八年の長きにわたり会長を務められた清水玲子さんより辞任の挨拶がありました。

総 会 報 告

平成二十八年度同窓会総会は、六月十八日(土)、福島グリーンパレスにて、招待者の恩師・母校教職員・各支部代表・新幹事、他に六のつく当番学年等、総勢二百九十五名の参加で開催されました。

清水玲子同窓会会長、青山修身母校校長の挨拶、来賓紹介に続き議事に入り、平成二十七年事業報告、決算・監査報告、平成二十八年度事業計画案、予算案、規約改正案の審議は、満場一致で承認されました。

続いて当番学年によるアトラクションでは、昭和四十六年卒高橋美代子さんとその師高田徳子先生による津軽三味線デュエットの演奏があり、「生」の津軽



総会風景



津軽三味線演奏

能致しました。その後会食懇談へと移り、懐かしい時間があつという間に過ぎ閉会となりました。

平成28年度 福島県立橘高等学校同窓会 一般会計予算書

収入金額 2,567,474円 自 平成28年 4月1日
支出金額 2,567,474円 至 平成29年 3月31日

項目	予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会費	2,080,000	2,080,000	0	同窓会費6,500円×320名
雑収入	10,000	10,000	0	利息・寄付金
繰越金	477,474	312,053	165,421	
合計	2,567,474	2,402,053	165,421	

項目	予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会議費	10,000	10,000	0	役員会会議費等
総会費	150,000	150,000	0	総会要項・懇親会等
助成費	700,000	600,000	100,000	全国大会出場、看板代、卒業記念品等
慶弔費	100,000	100,000	0	慶弔・支部総会祝金等
通信費	30,000	40,000	△10,000	切手・はがき代等
旅費	60,000	50,000	10,000	支部総会等旅費
事務費	400,000	450,000	△50,000	事務作業手当・事務用品等
維持費	960,000	960,000	0	セミナーハウス維持管理費
積立金	120,000	20,000	100,000	
予備費	37,474	22,053	15,421	
合計	2,567,474	2,402,053	165,421	

(執行にあたっては項目間の流用を認めるものとする)

平成27年度 福島県立橘高等学校同窓会 一般会計決算書

収入金額 2,470,680円 自 平成27年 4月1日
支出金額 1,993,206円 至 平成28年 3月31日
差引金額 477,474円

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
会費	2,080,000	2,048,500	△31,500	6,500円×320名、転学等による返金
雑収入	10,000	110,127	100,127	利息・寄付金¥110,000円
繰越金	312,053	312,053	0	
合計	2,402,053	2,470,680	68,627	

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
会議費	10,000	6,840	△3,160	役員会会議費等
総会費	150,000	150,000	0	総会要項・懇親会等
協力費	600,000	320,540	△279,460	全国大会出場助成・看板代等
慶弔費	100,000	35,000	△65,000	慶弔・支部祝金等
通信費	40,000	19,894	△20,106	切手、はがき代等
旅費	50,000	10,000	△40,000	支部総会等旅費
事務費	450,000	360,932	△89,068	事務作業手当・コピー機等
維持費	960,000	960,000	0	セミナーハウス維持管理費
積立金	20,000	130,000	110,000	寄付金¥110,000
予備費	22,053	0	△22,053	
合計	2,402,053	1,993,206	△408,847	

監査いたしました結果、会計は適正に執行され、上記のとおり相違ないことを認めます。

平成28年 4月 6日 監査 山崎京子 宮澤芳子

飛翔 橘高校

全国大会で大活躍!!

今年度も橘高校の生徒達の活躍が光りました。
 山岳部は男女ともに全国大会出場の快挙を成し遂げました。その他、運動部では、水泳部、陸上部、卓球部が、文化部では、囲碁部、文芸部が全国を舞台に活躍しました。



山 岳 部



陸 上 部

部活動報告

◆ 全国大会出場 ◆

▽ 囲碁部

▽第40回全国高校囲碁選手権大会
 平成28年7月26日～7月27日
 男子個人戦 佐藤飛翔
 女子個人戦 國分 黎

▽第40回全国高等学校総合文化祭
 平成28年8月2日～8月3日
 県対抗団体戦 國分 黎

▽ 陸上部

▽平成28年度全国高等学校総合体育大会・秩父宮賜杯第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
 平成28年7月29日～8月2日
 200m・400m 村上 穂
 4×100mリレー 渡辺美憂・横山友香
 種本美哉・佐久間史穂
 布施野麻由・山下桐子

▽第71回国民体育大会陸上競技
 平成28年10月5日～10月11日
 少年女子A 100m 村上 穂
 少年女子共通三段跳 山下桐子

▽第32回日本ユニア陸上競技選手権大会・第10回日本ユース陸上競技選手権大会
 平成28年10月21日～10月23日
 ジュニア女子100m 村上 穂
 ユース女子三段跳 山下桐子

▽文芸部
 第40回全国高等学校総合文化祭
 平成28年8月1日～8月3日
 文芸（詩）部門 佐藤優歩

▽山岳部
 平成28年度全国高等学校総合体育大会登山大会登山競技
 平成28年8月5日～8月10日
 男子A隊 大波 奨・尾形敦哉
 鈴木悠斗・小柳 開
 女子B隊 三浦玲香・七島奈津実
 村山詩織・加藤日向子

▽ 水泳部

▽平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
 平成28年8月17日～8月20日
 女子100m背泳ぎ 安田広佳
 女子200m自由形 宍戸奈穂

なつかしの
あ顔この顔



昭和33年卒 喜寿祝賀記念学年会 於：ホテル福島グリーンパレス

▽第71回国民体育大会水泳競技オープンウォーター・スイミング
 平成28年9月6日
 男子5km競技 和田玄太郎

▽卓球部
 平成28年度全日本卓球選手権大会
 平成29年1月16日～1月22日
 小池このみ



昭和29年卒 傘寿を祝う学年会 於：ホテル辰巳屋



昭和26年卒 からたち木曜会 於：ホテル辰巳屋



水泳部



囲碁部

平成28年度 入試合格状況

(4月1日現在)

Table with columns for National University, Private University, and Specialized School, listing university names, roles, and graduation years.

※ 表中の数字は、「合格者数」である。
※ 表中の「過年度卒」欄の合格者数については、報告のあった人数を示している。



文芸部

平成二十八年三月卒業生の
大学合格状況と進路状況

平成二十七年卒業生の国公立大の合格者数は一二六名で、昨年度より一三名減少した。センター試験の国語の全国平均が上昇し、本校生にはプラスに作用したが、英、数、理系化学で全国平均が低下したことの影響が大きかった。特に、理系の理工学系、医療系では苦戦をした。一方で、一橋大、東北大、お茶の水大などの難関の大学については、例年以上に良い結果を出

すことができ健闘したと言える。本校の一年生時五月の進路希望調査では、ほとんどの生徒が国公立大を第一志望に掲げているが、国公立大は全国的に人気が高く簡単には合格できない。合格には、五教科七科目以上の「センター試験」でしっかりと目標点を超える点数を取ったうえで二次出願をした。特に、理系では、数、理、英、文系では、英、国、地歴の強化が重要となる。三年になる前の段階で、日々の家庭学習の習慣を身につけ、基礎力を確実に定着させておくことができるかが、成功へのカギを握っている。



第18回たちばなゴルフ会 於：安達太良C.C.



昭和56年卒 川島先生を囲む会 於：ホテル辰巳屋



昭和41年卒 3-1クラス会 加藤京子先生を囲んで 於：摺上亭大鳥

なつかしき恩師

今、ポーランドで日本語教師をしています。坂下高校の校長職で定年を迎え、その後、大学と大学院（英国）で日本語教師の資格を取得して海外に赴きました。第二の人生のスタートです。

最初に向かったのは中東欧のハンガリー。首都ブダペストの国立大学で日本語教師としてデ



毎日が新鮮です。

田辺 英憲

昭和52年4月〜昭和62年3月
（ポーランド在住）

ビュです。学生たちは優秀で、三年生にもなると日本の大学に留学する者も出てきます。そんな学生の勤勉さと桁外れに美しい街並みに心が癒やされた二年間でした。

その後、教員公募選考を経て、日本学科のあるポーランドの国立大学に移りました。今勤めている大学の日本語講座は、本学の学生だけ

でなく、中学生や高校生、それに社会人も一緒に受講できる形になっています。受講生は合計八十名ほど。日本のアニメに魅せられて言葉学習に来る中高生の目はキラキラと輝いています。また、本学教授のお二人が受講者の中にいることも目を引きます。私は日本語だけでなく、日本史や書道も教えています。女子学生は小筆で平仮名を崩し字で書くのが大好きです。「あをによし ならのみやこは さくはなの」と、なかなかの腕前で、作品をお見せしたいくらいです。

さて、私は今、大学近くのアパートに一人住まいです。ポーランドは付加価値税（日本の消費税）が二十三日ですが、食料品は税率が低く抑えられているので助かります。てこずっているのは言葉です。

スラヴ語派の言語は特に発音が難しいです。気のいい学生が教えてくれるのですが、普段は片言のポーランド語と英語の組み合わせでなんとか凌いでいるといったところです。

中東欧に来て早いもので四年になります。日々ハブニングに遭遇しながらも、良き友に恵まれて、元気に第二の青春を生きています。

卒業生の活躍

大学で建築まちづくり

岡部 明子（昭和56年卒）
（東大教授）



大学で建築を学んだ後、バルセロナ（スペイン）に十年間暮らし、設計事務所に転職。現在は、学生たちと国内外のまちづくりに取り組んでいます。

日本では、房総半島の南端にある集落に、五年以上通っています。ゴンジロウという屋号の茅葺き民家を私たちの拠点として使わせて

もらっています。雨漏りのひどかった屋根を葺き替えることから着手しました。この集落でも、夏祭りの風景からお神輿が消えました。余所者はつい「コミュニティが衰退した」と早合点しますが、そうではありません。その代わりが今では、フラダンスとカラオケ大会です。高齢化・人口減少に、コミュニティは見事に〈適応〉しているのです。国外では、インドネシアの首都ジャカルタ中心部にある超高密度のいわゆるスラム的な地区で、地元のみならず、つよに共用トイレなど建物をつくってきました。

人格形成期にメキシコで育ち、

でなく、中学生や高校生、それに社会人も一緒に受講できる形になっています。受講生は合計八十名ほど。日本のアニメに魅せられて言葉学習に来る中高生の目はキラキラと輝いています。また、本学教授のお二人が受講者の中にいることも目を引きます。私は日本語だけでなく、日本史や書道も教えています。女子学生は小筆で平仮名を崩し字で書くのが大好きです。「あをによし ならのみやこは さくはなの」と、なかなかの腕前で、作品をお見せしたいくらいです。

さて、私は今、大学近くのアパートに一人住まいです。ポーランドは付加価値税（日本の消費税）が二十三日ですが、食料品は税率が低く抑えられているので助かります。てこずっているのは言葉です。

スラヴ語派の言語は特に発音が難しいです。気のいい学生が教えてくれるのですが、普段は片言のポーランド語と英語の組み合わせでなんとか凌いでいるといったところです。

中東欧に来て早いもので四年になります。日々ハブニングに遭遇しながらも、良き友に恵まれて、元気に第二の青春を生きています。

図書室の片隅で

齋藤 芳生（平成7年卒）
（歌人）



昼休みや放課後になると、今はもうない古い校舎の一番奥にある図書室で、さまざま詩集を手にとっては気に入った作品をノートに書き写す。それが、高校生だった私のささやかな楽しみであった。

当時、いわゆる進学校の授業にも、部活の厳しい練習にもまったくくついていけずいた私にとつて、この時間こそが数少ない高校生らしい思い出のひとつなのである。高田敏子や吉原幸子、茨木のり子といった女性詩人たちの作品が好きだった。ことに憧れていたのは新川和江である。彼女の詩集を読むうちに、やがて自分でも詩らしきものを書いてみるようになった。けれど、その「詩らしきもの」は結局誰に見せることもなく、現在私の手元に残っているものはひとつもない。そして不思議なことだが、その後私がめりこんでいったのは現代詩ではなく短歌だった。

当時の記憶が思いがけなく蘇ったのは、角川短歌賞という新人賞をいただいた時である。毎日新聞の文芸欄で、文芸ジャーナリストの酒井佐恵さんが私の受賞作「桃花源を待つ」を新川和江詩集『記憶する水』と共に取り上げてくださったのだ。図書室の片隅で詩集を読み、その一つひとつの作品に夢中になっていた私の時間。あの時間が十年以上も経って今、繋がった――。本当に驚いた。そしてただただ、嬉しかった。私は今も「芳生」という筆名で短歌を続けている。もしできるなら、あの頃の私の肩にそっと手をおいて、ありがとう、と伝えたい。

妖精よ、輝け！

宮田 舞（平成17年卒）
（美容コーチ）



記憶にも新しいリオオリンピック。選手たちの輝く姿に、多くの方が感動を覚えたのではないのでしょうか。私にとって新体操日本代表「フェアリー ジャパン」の美容コーチとして選手と迎えたオリンピックは、一生の記憶に残るものとなりました。



新体操は、技とともに「美」を競う競技です。美容コーチが開発し、施す「メイク」は、視覚的な美しさを与えるとともに、選手自身が美しくあることで「確固たる自信を宿す」という重要な役割を担っています。そして試合当日。リオの会場にいた私の目には、自信に満ち溢れ、世界の舞台上で輝く妖精たちが映っていました。

岡部明子氏プロフィール

東京大学教授 博士（環境学）
千葉大学を経て二〇一五年より現職
〔著書〕
「サステイナブルシティ」（二〇一三年）
「バルセロナ」（二〇一〇年） ほか

齋藤芳生氏プロフィール

本名 齋藤周子（ちかこ）
福島県立福島女子高等学校卒
玉川大学文学部教育学科卒
〔受賞歴〕
第五三回角川短歌賞
第一七回日本歌人クラブ新人賞
〔著書〕
「桃花源を待つ」
歌集「湖水の雨」

次の大舞台は二〇二〇年の東京オリンピック。日本中を妖精たちの「美しさ」で感動させること。それが私の今の目標です。

宮田 舞氏プロフィール

平成17年 福島県立橋高等学校卒業
平成21年 日本女子大学入学
平成25年 美容コーチ就任
女性誌などのメディアPR担当の傍ら、「フェアリー」ジャパン、ポーラらの美容コーチとして活動。毎年の世界選手権へ向けてのメイク開発や選手の日々スッキングなどのアドバイスを行う。

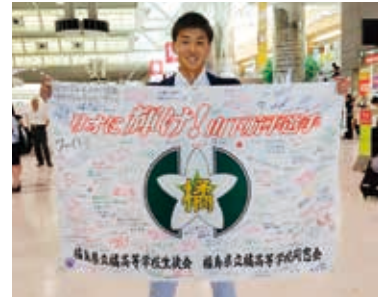
成功へのプロセス

山下 航平(平成25年卒)
(筑波大学学生)



陸上競技・三度跳において、二度のオリンピックに出場し、今なお残る日本記録を保持する父を超えたいと、私は十歳のころからこれまでもずっと陸上競技を続けてきています。そして二〇一六年、大きな夢の舞台であったオリンピックにとうとう出場を果たすことができました。父の華やかな過去を知った時から抱いていた夢に、大きく前進した一年でした。同時に、今まで取り組んできた陸上競技の世界が一変したことで自分自身の競技者、そして人間としての甘さを痛感し、私の競技人生における一つのターニングポイントとなったことは間違いありません。

とここで、何かに成功したり、成果を挙げたりした話の中で「継続は力なり」という言葉をよく耳にします。私自身、陸上競技を始めて以来なかなか結果が出せずにもがきながら、なんとかここまで結果を残せるまでに成長できたのも、やはり地道に「継続」してきたことが力となったことに疑いはありません。しかし、そうは言っ



てもただ物事を続けていられるだけで必ずしもいつしか結果が得られるとは限りません。成長のためには何が必要なのかをよく考え、試行錯誤を繰り返すことが目標を達成のためには必要と、私は学びました。優れた過程を踏んでこそ、継続は力と変わるのではないのでしょうか。私の今の最大の目標は、二〇二〇東京オリンピックにおけるメダル獲得です。中途半端な努力では到底叶うことのない、壮大な目標を私は目指しています。どんな過程を踏んで本番に臨むのか：体だけでなく、しっかりと頭をフル回転させながら今後とも邁進していく所存です。

山下航平氏プロフィール

平成22年 福島県立橋高等学校 入学
平成24年 ぎふ清流国体 少年男子A三段跳 優勝
平成25年 同校卒業
平成28年 筑波大学体育専門学群 入学
リオデジャネイロオリンピック ビック陸上競技三段跳 日本代表

平成29年度(2017年) 総会のお知らせ
とき 平成29年6月17日(土) 11:00~14:30
ところ 福島グリーンパレス (福島市太田町13-53) TEL.024-533-1171
当番学年
卒年に7のつく学年
内容 総親会
会費 5,000円

同窓

二ニュース MEMO

Table with columns for month/year and event details. Includes entries for 平成28年 (昭和29年卒) and 平成29年 (昭和30年卒).

支部だより 福島市役所支部

和気あいあいと活動中
香野(半野)さかえ(昭和54年卒)
福島市役所で働く同窓生相互の親睦を図るため、福島女子高校の創立百周年を目前にした平成27年に「福島市役所たちばな会」は発足いたしました。



東京支部

大盛況! 東京支部同窓会
井上(小林)輝子(昭和58年卒)
平成28年10月2日、渋谷東武ホテルにて東京支部総会&懇親会を開催しました。昭和31~63年卒業の三十七名が出席し、世代を超えて楽しいひと時を過ごしました。



東京支部

んによるオペラ「乾杯の歌」にのせて華やかな会の始まりです。メインは卒業生によるPRコーナー。今年、は、ジャンルの違う声楽の古民家に関するお話、個展も開催されている折り紙の展示、調布深大寺のテレビ番組でも多数取り上げられている「だるま」だるまチャーン」の展示で会を盛り上げました。

支部一覧 Table listing branch names, presidents, and graduation years. Includes Tokyo, Fukushima City Office, and various regional branches.

学年だより

福女を巣立って六十五年!! そして、今

山崎(本多)京子 (昭和26年卒)



昭和26年卒

母校同窓会総会の六のつく最高の当番学年として五名の学年幹事が準備会に出席しました。当番学年制と云う独自の総会・懇親会の持ち方が受け継がれ毎年盛大に開か

れているのは、同窓会長始め役員評議員の皆様、事務局の先生方、そしてその年々の当番学年幹事の皆様のご努力の賜と、二十六年卒の二十四名の出席者一同、出席できた事を喜び感謝しました。

卒業後二十年より毎年開いていた同年会は七十五才の時福島方が担当で行われたのを最後に解散し、その後は方部毎で同期の絆を繋いで行く事とし、福島方は「からたち木曜会」と称し毎年三月と九月の第二木曜日を例会日と決め例会場のホテル辰巳屋に集っております。

今年の九月例会は九月八日に二十名の同期生が集い卒業六十五年を振り返り思い出を語り合い、会の継続を願い再会を約して散会しました。

なつかしき友との出会い

半澤(阿部)トシ (昭和36年卒)

十年ぶりの当番学年を迎え、私たちは同期会を結成し、早速各組の幹事が集まり、準備の作業を開始しました。同期生たちの近況を確認しながらの作業は楽しいものでした。八十名の方が参加して下さい、同窓会総会が始まりました。懇親会では、五十数年ぶりに顔合わせした友も多く、名前は忘れても顔は覚えていて、思い出話に花が咲きました。また会いたいわね、数年後、喜寿の時に同期会をしましょう、という話も出ています。

例えば、私たちは一年生の時にカバンと座布団を抱えて、廊下をうろろろ、民族大移動(教室移動)を経験した最後の学年でした。二



昭和36年卒

年生からは各教室に落ち着き、卒業後は、各々の組毎にクラス会をしており、一年の時共に学んだ友人とは、卒業時の組が違うとなかなか会えませんが。そんな時、十年に一度とは言え、母校の同窓会総会に出席し、懇親会になつかしい友と会えるのは、すばらしい企画だと思いました。

激動の時代の高校生は、今!!

大竹 恵理 (昭和46年卒)



昭和46年卒

十年前の総会は幹事二名で奮闘した私達の学年でした。今回は新たに幹事を引き受けてくれた人を含めて、八名で準備を頑張りました。全クラスに連絡し、事務費協力者多数、参加者は五十四名でした。恩師の高橋薫先生と伊澤寿昭先生も出席してくださいました。

総会の後、高橋美代子さん(四組)による津軽三味線の熱演を鑑賞。続いて薫先生によって披露された当時の秘話で、頭の中はすっかり昭和四十年代に。そして伊澤先生の乾杯の音頭で懇親会へと突入。それぞれの歴史を遡って話しました。四十六年目に再会した人とも、自然に会話が弾むのが「同窓会マジック」でしょうか。十年後にはさらにたくさんの方

懐かしい校歌

尾形(渡辺)美和子 (昭和56年卒)



昭和56年卒

が出席できますよう、平和と健康の維持に努めて参りましょう。次回の連絡のために、住所変更等の際は事務局までお知らせください。

「朋有り遠方より来る、また来しからずや。同窓会の醍醐味は、まさにここにあるのではないのでしょうか。七十一名の五十六年卒の皆さんとお会いできて、忘れていた遠い昔の感情を思い出しました。福女の校歌が流れれば、歌詞が自然に出てきます。かつて、体育館で歌っていた時のような感覚を覚えました。

申し訳ないことですが、今まで同窓会というと、一部の友達で開いている面倒臭いものという思い込みをしていました。けれど、母校は温かく、友人達は変わらず優しいのです。今回欠席だった方も、次回は是非足を運んでみて下さい。

最後に、何かから手をつけて良いのか途方に暮れていた私達に助言したり教えて下さった「福女55の会」の先輩、ありがとうございます。

懐かしの福女

菊地(六戸)真紀 (平成6年卒)



平成6年卒

ざいました。五十六年卒の皆さん、またよろしくお願ひします。

バレエ部の同期生から連絡があり、同窓会があるのですが、出られる人がいないので、都合が良ければ、出てもらえないかと。卒業した年の一桁目が六の学年とのこと。今回が卒業してから初めての召集でした。卒業してから二十年以上経っていました。

私は、都合が良かったのと懐かしさがあって出席しました。私たちの学年の出席は四人でした。確か五百人位はいなかったかなと驚きました。ほとんど知っていないメンバーだったので近況を報告しあつたり、先輩のお話を聞いたりしました。中学校の時の先生や同級生のお母さんにもお会いすることができました。

新しい校歌、先生のお話、とても楽しい時間でした。

十年に一度なので、次回ももっと多く同期生が出席できたらいいな、と思いました。

あとがき
☆母校は本年創立百二十年を迎えます。長い歴史の流れの中で校名、校舎、制服、校歌等は変わっても、校風と伝統は時代の新たな価値を加えつつ脈々と受け継がれてきたことに感慨を覚えます。
☆リオ五輪に活躍した山下選手と宮田さんの貴重な体験談は興味深く、大会がいっそう身近に感じられました。
☆本会ハワイ支部(七頁下参照)についての情報を求めています。

振込用紙の通信欄に寄せられた
メッセージを掲載します。

会員メッセージ

平成22年9月18日に母は逝去いたしました。母校を心から愛する母でした。これからの皆様の活躍をお祈りいたします。

S 3卒 佐藤佐藤 みよし

娘達の住まいの近くの千葉県流山市で生活しております。デイサービスや編み物、国会中継の視聴などして元気にしています。時折、福島を懐かしく思い出しております。

S 10卒 佐藤(佐藤) キミ

夫逝きて10年目を迎えました。感謝と報恩の気持ちを込めて、協力させて頂いていただきます。

S 13卒 浅野(鈴木) 千代

思いがけず急ぎよ入院。でも皆様に助けられて帰生しました。遅れましたが助けをいただいた尊い命、もう少ししたいにしたいと思えます。

S 15卒 持地(三瓶) みよ

今年1月で90才に、そして車椅子の生活になりました。皆様の手をお借りしての日々を過して行きます。母校の御発展をお祈り申し上げます。

S 17卒 片平(高橋) 桂子

「同窓」をお送り下さりありがとうございます。皆さまには「浦島」のように感じられます。皆様の「ご多幸」をお祈り申し上げます。

S 17卒 佐藤 ミヨ

会報にのせていただいて有難うございました。卒寿まで同年会34回出来ることを願っています。

S 20卒 吉野(針金) 愛子

光陰矢の如しの感を抱いて居ります。米寿を迎えました。嫁、孫達も同窓生です。御発展を祈ります。

S 20卒 阿部(斉藤) キミ

会津支部の参加の写真がのっけて嬉しかったです。福島のイトコが教えてくれました。今年は元気で参加できると好いかと思っております。

S 21卒 東原(渡部) スミ子

会報ありがとうございました。私達昭和21年卒業の会では毎月最後の水曜日11:00から、福島市タツミ屋8Fのぶの里で昼食会を開いております。来るのは10人足りませんが、毎回おしゃべりを楽しんで居ります。

S 21卒 佐藤(山田) 貞子

昭和20年2年生の3学期、神戸から疎開してきて、新制高校第1回の卒業。その後洋裁学院を経て学院の教諭。中合パートのデザイナーとして勤めました。昭和51年日本最初の健康体操「自衛術」の指導者として40年間携わり、28年3月退任。専業主婦にもどりまして。現在ひ孫3人86才になりました。

S 24卒 長谷場(巻) 山京

充実した同窓会会報を編集される役員の皆様、本当に有難うございます。今年の同窓会に出席出来ること、楽しみにしております。

S 26卒 斎藤(小川) 洋子

貴校の増々のご発展と栄光をお祈りします。

S 29卒 市川(鴨原) 芳子

同窓会会長、清水玲子様、いつも若々しく活動されている御写真を拝見し、感謝しております。生徒会の役員と一緒にカンパりましたね。福島への想いは、今一番身近に感じられます。ますますお元気で生きて下さい。

S 29卒 山路(栗原) 康子

アイ子はH26年9月2日死去致しました。良妻賢母の姉が居ないと寂しい限りです。孫娘が松と縁にお世話になりました。(克巳)

S 29卒 山岸(中村) アイ子

今年で80才になります。同級生の皆さんは如何お過ごしか。金婚式も終えて、いよいよ終活の期を迎えます。残して逝くのも嫌、残されるのも嫌、手を携えて共に逝きたいもの。生かされし間は、怒らず、穏やかに仲良く過ごそうと語る日々です。歌と体操と花作りをしています。

S 30卒 石井(蓬田) しづ子

昭和31年卒の皆様、橋同窓会評議委員を8ルールの金子祥子様にバトンタッチしていただきました。在任中は古希の会や喜寿の会等、小野崎由笑子様始め各ルールの幹事様方のご協力、そしてご出席下さった皆様のお陰で無事終える事が出来ましたこと感謝いたします。

S 31卒 渡邊(河野) 素子

原発事故から五年がたちましたね。放射能汚染により避難生活をよぎなくされた大勢の方々には胸が痛みます。一日も早く前のような住みよい古里が戻ってくることを願ってやみません。

S 31卒 谷(片平) チイ子

私も今年はネンリンピックに行つて、最高齢者として山口県宇部市で市長から表彰されました。福女の人達も来てましたが、ソフトテニスの橋高校の人には会えなく残念。これから昔の仲間と逢えることを。

S 31卒 伊藤(小山) 恵美子

いつも私達卒業生の為にお働き下さりありがとうございます。

S 31卒 川島(内池) 秀子

自宅に完全に戻れる状態を作る様に皆さん知恵を出し合い、運動しませんか?自宅に戻りたい人はいるのに戻れぬ状態であることを皆知らないのです。現状を全国の人に知らせてやって下さい。

S 31卒 高橋(星) 和子

いつもお世話になります。

S 31卒 鈴木(金子) 眞理子

皆様の御健康と御多幸をお祈りいたします。

S 33卒 西田(西田) 明美

28年6月20日、喜寿祝賀学年会を3年ぶりに福島グリーンパレスで95名参加で開催致しました。全員で祝吟、フラダンス、健康スピーチと賑やかに青春を共にした仲間と絆を深めました。傘寿の会もしましょうと元氣な皆さんでした。

S 33卒 橋(佐藤) 洋子

お世話になります。会報「同窓」を楽しみにしています。

S 33卒 齋藤(東城) 孝子

橋の若い皆さんの活動欄を読むのがとても楽しみです。今年もすばらしい活躍が楽しみです。母校のますますのご発展をお祈り致します。

S 33卒 山田(西坂) 幸子

毎年の会報発行、本当に大変でしょう。ありがたく拝見しております。若い頃は何でもできると思っていました。体が思うようにきかなくなると健康がいかに大切かがわかります。

S 34卒 佐藤(渡辺) 瑛子

母校の桜が誇らしげに咲くのが楽しみです。正門前道路を通行した時に足を止めて観桜することにします。

S 34卒 八島(芳賀) 美恵子

白寿の大師先生を囲んで、「花たちばな34会」を開催、まだまだ乙女の皆様の元氣な写真を参加出来なかった方々へのメッセージとして、会報に載せていただき、感謝いたしております。

S 34卒 五十嵐(山崎) マチ子

「学年だより」欄の、昭和35年卒珊瑚会の集合写真を見て、3年後の七十七才の珊瑚会へ是非、出席する決意をしました。納入遅くなりました。

S 35卒 本多(安田) キミ子

いつも同窓会会報ありがとうございました。66号の珊瑚会の写真見入りました。3年後にはぜひ参加したいと思っております。

S 35卒 阿部(大槻) ミヨ子

我家の親族に福女2人橋2人の同窓生がいます。今度同窓会しようねと約束しました。母校の発展をお祈りしています。

S 35卒 関(斉藤) 泰子

会報いつもありがとうございます。懐かしく拝読しています。役員の方々、お体を大切に下さい。

S 36卒 石井(渡辺) 千恵子

震災時1才で、一時秋田に避難していた孫が戻り、今年小学校入学です。今はスキー、水泳と頑張っています。夢にまで見た、近くで成長を見守れる様になった事がすごく嬉しです。ありがとうございます。

S 36卒 滝川(角田) 靖子

日本の自然を愛した「室生犀星」の詩「ふるさと」は遠きにおいて思ふもの。そして「」の感傷に浸っています。

S 36卒 橋本(佐藤) 桂子

歳女の今年、次の歳まで元気な高齢者でありたいと、好きな音楽を楽しまつ、民友新聞マンガ「ももちゃん」作者小田令子さんの福島弁に毎日笑いをいただいております。

S 37卒 鈴木菅藤 眞美子

福島に元気がもどりますように！千葉四街道の地で合唱活動を続けながらいつも祈っております。

S 38卒 森川（高野）和子

東日本大震災で全壊と大変な思いをしました。協礼金も今回分送金微力ですが、させていただきます。陰ながら活動等を見守っていきます。

S 39卒 山内（遠藤）ヨイ

いつもお世話になっております。福女時代に戻る「同窓」をなつかしんでいますが、敬弔欄に同級生のお名前をみつめました。さみしいものです。

S 41卒 金子（穴田）景子

母校の先輩、後輩の方々のご活躍を毎年「同窓」で知らせていただき、沢山のエネルギーを頂戴しています。さすがですね。いくつになっても良い生き方を目指していく事大切ですね。

S 41卒 加藤（菅原）順子

同窓会のお役の方々、いつもありがとうございます。来年は私達古希です。気持と身体は裏腹。検診の度に Doctor の言葉、「まあ、しばらく模様を見ましよう」自覚症状がないままこちらが治ればあちらが…。杜甫の時代の「稀なり」は当然と頷けます。

S 41卒 粕尾（佐藤）裕子

いつもお世話になっております。少々で申し訳ありません。通信費です。

S 42卒 渡辺（鈴木）礼子

母校校舎シリーズ（22）、初めて見る、ヤマトタチバナ」とさくら（でしようか）、とてもすてきです。

S 42卒 相原（上野）幸子

いつもありがとうございます。なつかしく読ませていただいております。

S 43卒 黒岡（渡辺）美津子

会報いつも楽しみにしています。前回の会員メッセージには、東京の姉の便りも載っており、改めて同窓生であることを実感しました。

S 43卒 川島（金子）チエ子

いつも有難うございます。横浜におりますので、とても懐かしく拝見しております。今後の御発展をお祈り申し上げます。

S 43卒 中添（長尾）加織

震災から丸5年経つのに、除染廃棄物はカバの色が代わってもそのままに、福島県人の苦痛はなかなか減らず5年の歳月が複雑な重さになって生徒さんの世代への影響を各地の再稼働のニュースにおもっ、この頃です。

S 43卒 河野（栗城）順子

昨年度の同窓会楽しかったです。又参加したいです。

S 44卒 山口（渡辺）洋子

とても楽しい同窓会総会でした。準備をされた皆さま、ありがとうございます。

S 45卒 加藤（加藤）恵理子

千葉県人になって37年。昨年は、当番学年という知らせがあり、初めて同窓会に出席し、45年ぶりに同級生と再会しました。これを機に6月にクラス会を行うことになりました。同窓会当番学年制、すばらしいです。母校がぐんと身近になりました。

S 45卒 椎名（松本）典子

昨年6月に同窓会に参加しました。45年ぶりの再会にもかかわらず、タイムスリップして、楽しい時間を過ごさせていただきました。どうもありがとうございます。

S 45卒 大沢（松浦）和子

毎年の同窓会おたよりありがとうございます。事務局の皆さまのご苦労に感謝です。そして協力金をついで滞納してしまい申し訳ありませんでした。

S 46卒 斎藤 恵以子

義父大寺敬二は、福女に21年も勤めたこともあり、福女や卒業生への思いも人一倍強いようです。前号の写真にも載っていますが、「花たちばな34会」の皆様には、本当にお世話になりました。今年100才です。

S 47卒 大寺（天沼）智子

今年は還暦。福女時代の友人とあうと、瞬時に15、18才の頃にもどれるのは、福女マジック、かしら！

S 50卒 白石（松本）美喜子

同窓会の御発展をお祈り申し上げます。

S 52卒 谷田（尾形）暢子

吉野叔子さま、役員、ご苦労さまです！！

S 52卒 西園寺大越美希子

「なつかしき恩師・鈴木啓先生」大変嬉しく拝読しました。教科書から離れてお話し下さる、学生時代の発掘調査のお話。平安の紅葉がみるみる茶色に変わった驚きのお話など今でも大切な先生との思い出です。

S 54卒 草苺（国分）則子

信天山松と桜の校歌をうたうと元気をもらえます。1年の時の担任の緑川武夫先生をはじめ、高橋哲夫校長先生、そしてすばらしい友達と出逢うことが出来て、感謝のところで一杯です。ありがとうございます。

S 54卒 八巻（佐藤）妙子

信州の松本でこどもクリニックを開き、子ども達の診療を行ってあります。福女での3年間の学校生活は、私の人生で一番の宝物で今も心の支えになっています。

S 57卒 宮林（柿木）麻里

役員皆さま、ご苦労様です。同窓をお送りいただき同窓生の活躍を目にするのと刺激になります。

S 57卒 酒井齊藤美奈子

橘11期生の息子が今春卒業しました。無事志望大に合格し、安堵しているところです。校舎がかわっても母校に行く機会があるのは、うれしいことでした。

S 61卒 伊藤（斎藤）まゆみ

会報作りありがとうございます。皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

S 62卒 佐藤（菅野）真奈美

母校の増々の発展と福島県の復興を応援しています。

H 元卒 下平（飯土井）由香里

昨年度初めて平成5年卒として同窓会総会に参加させて頂きました。あの頃と変わらず皆元気に素敵にご活躍のこと、とても嬉しく楽しい時間でした。また10年後、お会いしましょう。

H 5卒 齋藤（渡邊）裕子

卒業しても会報を通して母校とながっていただけること、嬉しく思っております。皆様、多方面で様々なご活躍をされていて、励みになります。

H 14卒 菅野（高橋）恵子

職場に入ってきた方が後輩であること知り、初めて仕事上の付き合いで男性の卒業生と出逢いました。女子高だった母校も共学になったことを身をもって感じました。

H 17卒 沖 和 砂

住所変更手続きのお願い

住所や電話番号等を変更された方は事務局までお知らせください。その際、正確を期すため書面（協礼金振込用紙通信欄、ファックス、ハガキのいずれか）でご連絡下さい。

福島県立橘高等学校同窓会
（福島女子高等学校）

事務局 福島県立橘高等学校内
〒960-8011 福島市宮下町7番41号
ファックス番号 (024)535-3397



当時から志していた和菓子職人の道に進み、現在は福島市北町にて家業の和菓子店を営んでおります。時々訪ねて来てくれる橘高校ゆかりの方々とお話するのが何よりの楽しみです。

H 20卒 菅野 翔太郎

H 21卒 渡邊 恭子